

都市再生整備計画(第2回変更)

しろ いし おおだいら
白石・大平地区

み や ぎ け ん し ろ い し し
宮城県 白石市

令和7年9月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☒
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	宮城県	市町村名	しろいし 白石市	地区名	しろいし おおだいら 白石・大平地区	面積	360	ha
計画期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度	
					交付期間	令和	5	年度
						～	令和	9
							年度	

目標
大目標：白石の魅力を高める広域交流拠点の形成による地域の活性化 目標1：「道の駅」を核とした新たな観光交流拠点、情報発信拠点の創出による交流人口の拡大 目標2：子育て世代から高齢者が集う賑わいあふれる拠点づくり 目標3：災害への備えと支えあいがある安全・安心なまちづくり
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 白石市は、平成23年度に策定した「第5次白石市総合計画」に基づき、子育て支援や定住化の促進、防災対策の充実、道路・交通網の整備などに取り組んできたが、人口減少・少子高齢化への対応や地域資源の活用、利便性の高い生活基盤の整備など課題が多い。 本市は、南北に東北新幹線と東北自動車道が走り、市内にはそれぞれ白石蔵王駅、白石インターチェンジが設置されている。また、国道4号、国道113号が市内を通るなど地理的条件に恵まれた地域であるが、令和元年度に実施した市民アンケートでは、豊かな自然に対する満足度が高い反面、交通の便、観光地としての魅力、地域資源の有効活用などに対する満足度が低くなっている。 本市では、「第6次白石市総合計画」(平成3年度)において、目指す将来像を「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」とし、その実現に向け、重点戦略の1つとして「輝く未来地図戦略」を実現するための各種取り組みを進めてきた。 その中で、大平地区に(仮称)白石中央スマートインターチェンジが令和2年度に事業化され、その整備効果を最大限に発揮するための周辺整備基本計画を令和3年9月に策定し、優位性を生かした新たな「工業団地」、新たな機能を備えた「道の駅」、心と体の健康を増進する「スポーツ・レクリエーション拠点」(災害時には防災公園として活用)の整備する方針を定めた。 これにより、物流の効率化による基幹産業の支援と産業拠点の形成による企業誘致の促進や振興、アクセス向上による白石城や武家屋敷、碧水園、寿丸屋敷など地域資源を活用した中心市街地の賑わいの創出と交流人口の拡大、主要観光地へのアクセス向上と新たな周遊観光ルート形成による観光産業の活性化が期待される。 また、福岡地区に整備した農産物等販売施設「おもしろいし市場」、地元食材活用レストラン「みのりKitchen」、子育て支援・多世代交流複合施設「こじゅうろうキッズランド」などが入る「しろいしSunPark」は、市民、観光客が利用する空間となっているが、今後、道の駅での情報発信等により、一層の回遊性の高まりが想定される。
課題
・道路利用者に対する観光情報発信手段が希薄のため、地域資源を生かした観光地等への回遊性が低い。 ・近年の急激な人口減少は、少子高齢化によるものだけではなく、若年層や働き世代が転出している状況を踏まえ、子育て世代から高齢者までの多世代が交流可能な拠点づくりが急務となっている。 ・市中心部の指定避難所の多くは浸水想定区域内に立地しているため、市役所本庁舎と相互補完しながら指定避難所の開設・運営等に対して支援を行う地域防災拠点施設、備蓄倉庫の整備など市民の安全・安心の確保が求められている。
将来ビジョン(中長期)
①第6次白石市総合計画(2021～2030)(令和3年度策定) 【重点戦略4：輝く未来地図戦略】 ・災害時における安定的な輸送の確保 ・防災力の強化 ・観光振興・賑わいの創出 ・企業支援及び新規企業誘致による働く場の創出 ・未来につながる新しい価値の創造拠点形成 ②仙南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(2020～2035)(令和元年度策定) 【都市計画区域の基本方針】(一部) ・地域の役割に応じた商業地形成 ・広域交通利便性を生かした工業地形成 ・豊かな自然環境、歴史・文化を生かした周遊型観光地形成 ③都市計画マスタープラン(2012～2030)(平成22年度策定) 【都市づくりの目標】(一部) ・良好な広域交通条件を生かした工業地づくり ・広域交流を活性化させる観光都市づくり ④白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」(2021～2025)(令和2年度策定) 【基本目標】(一部) ・企業支援・新規企業誘致による働く場の創出 ・観光振興を通じた新たな魅力の発信 ・移住・定住のための支援の充実 ・魅力ある都市空間や道裡・公共交通の整備

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
市外からの移住世帯数	世帯	定住促進事業申請者	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって市外からの移住世帯数が増加する。	39世帯	R元年度	68世帯	R9年度
本市に住み続けたいと思う割合	%	市民アンケート	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって本市に住み続けたいと思う人の割合が増加する。	27.0%	R元年度	37.0%	R9年度
市内年間観光客入込数	人	観光客入込数調査	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって観光客の数が増加する。	1,198,379人	R元年度	1,380,000人	R9年度
防犯・防災対策の満足度	%	市民アンケート	防犯・防災対策の満足度の増加は、災害への備えの強化したことを示す。	15.5%	R元年度	30.0%	R9年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【「道の駅」を核とした新たな観光交流拠点、情報発信拠点の創出による交流人口の拡大】 ・白石市の自然、歴史・文化、観光などの魅力を発信する地域活性化の拠点となる観光交流センター「道の駅」を整備する。 ・観光交流センターは、大型タッチパネルによる道路交通情報や地域の観光情報の提供など、市民、来訪者への総合案内としての役割を担う。 ・観光交流センターでは、モデル周遊コースなどの著名な観光資源への回遊を促し、白石城など中心市街地の賑わいを市内全域へ波及させ、本市の活性化を図る。 ・隣接地に整備するスポーツ・レクリエーション公園との相乗効果により、来訪者が回遊し、長時間滞在できる空間を演出する。		【基幹事業】(地域生活基盤施設) イベント広場整備事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設) 観光情報案内板設置事業 【基幹事業】(高次都市施設) 観光交流センター整備事業 【提案事業】(事業活用調査) 市民バス運行社会実験 【提案事業】(事業活用調査) 電動アシストレンタサイクル社会実験 【提案事業】(事業活用調査) 事業効果分析事業 【関連事業】農産物直売施設、レストラン整備事業
【子育て世帯から高齢者が集う賑わいあふれる拠点づくり】 ・屋内遊び場、趣味サークルや市民グループの活動・研修等に活用できる多目的室を整備し、子どもから高齢者までが交流する空間を創出する。 ・屋外のイベント広場では、地域事業者や団体、地元高校生などによるイベントを定期的に開催する。		【基幹事業】(地域生活基盤施設) イベント広場整備事業 【基幹事業】(高次都市施設) 地域交流センター整備事業 【基幹事業】(高次都市施設) 子育て支援施設整備事業 【提案事業】(事業活用調査) 事業効果分析事業
【災害への備えと支えあいがある安全・安心なまちづくり】 ・大規模災害時の一時避難機能に加え、災害対策本部となる市役所の後方支援基地として機能する広域的な防災・災害活動拠点を整備する。 ・備蓄倉庫の整備など市民の安全、安心を確保する。		【基幹事業】(地域生活基盤施設) 備蓄倉庫、防災調整池の整備 【提案事業】(事業活用調査) 事業効果分析事業 【関連事業】防災公園整備事業
その他		
【その他】 ・道の駅の整備においては、国道4号の管理者である国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所との一体型整備を目指し、協議を進めている。 ・道の駅内の地域振興施設や隣接の防災公園(スポーツ・レクリエーション施設)の整備・運営については、官民連携手法(PFI方式)により実施予定のため、民間事業者の募集・選定プロセスにおいて、金融・法務・技術分野等の支援を目的とするアドバイザリー業務を令和4年6月16日に委託契約。9月に事業者へのサウンディング、12月に説明会及び現地見学会を開催した。 ・PFI事業者については、令和6年7月2日に優先交渉権者決定、令和6年9月27日に事業契約締結に至った。		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...A

...

[illegible]

白石・大平地区(宮城県白石市)	面積	360 ha	区域	南町1丁目～2丁目、田町1～3丁目、新館町、城南1丁目～2丁目、上久保、八幡町、益岡町、西益岡町、大手町、沢端町、本町、中町、長町、清水小路、柳町、大平中目、大平森合ほか
-----------------	----	--------	----	---

